

令和5年12月3日

羽衣区防災訓練

あなたは家族を守れるか！

防災の基本

自 助

共 助

公 助

自 助

自分を助ける

家族を助ける

共 助

近隣住民を助ける

救助・消火・炊き出し

公 助

警察

消防

自衛隊

震度 6 強の地震発生

キッチンで被災

テーブルや机の下に逃げ込む

まずは、身の安全

食器だなや冷蔵庫がダンスをおどりお皿やコップが降ってくる



ここは太郎の家のキッチン。テーブルの上には、すっかり朝食の準備が整っている。ねぼけまなこの太郎がちょうど席についたところだ。テーブルの向かいではお父さんは朝刊を広げ、隣では花子が牛乳を飲んでる。お母さんはガスレンジに向かって、お弁当のコロッケをあげている。お母さんが太郎に声をかけた……。

「早く、ごはん食べなさい」

いつものお母さんのせりふを聞きながら、太郎はあくびをした。

ドーンッ

おなかにズンとひびく、まるで地の底からわいてきたような大きな音がしたかと思うと、太郎はイスからボーンとはねあげられた。気がつくとも床に投げ出され、隣に

カンカンバラバラ

頭の上でひびく音に我れに返ると、太郎は知らないうちにテーブルの下にいた。お父さんが、両腕で太郎と花子を抱きしめている。どうやらお父さんがふたりをそこまで引っぱってくれたようだ。

お母さんが再び悲鳴をあげた。コロッケをあげていたフライ鍋がガスレンジから落ちて、熱い油を浴びてしまったのだ。太郎は、お母さんをなんとか助けたいと思っただが、お父さんの腕の中で体がすくんでしまっていた。

ガンガンガン

冷蔵庫がダンスをおどり、開いた扉がバタバタしている。前に後ろにと揺れていた食器だなの扉が開いて、中のお皿やコップを吐き出した。と、思う間もなく、食器だなが前のめりに倒れてきた。パンツ、ガラガラガッシャーン！

キッチン



「ど、どうしたんだ？」

わけがわからず床にふせていると、タテヘヨコへ体が激しく揺れていた。

「じつ、地震だ！」

お父さんが叫ぶ。

ギンギンシミン

家全体が悲鳴をあげているようだ。太郎は、心臓がドキドキ音を

立てて、今にも口から飛び出しそうな気がした。隣で花子がカナキリ声をあげている。

電子レンジが棚から転げ落ち、お母さんの足の甲を直撃した。グシャツという鈍い音がして、お母さんは顔をゆがめ、ガスレンジの前にへたりこんだ。

家ごとジェットコースターに乗せられたように、上へ下へ右へ左へと揺さぶられる。天井近くの吊り戸だなが、パンツと音をたてて開いたかと思うと、中からボウルやザル、ラーメンにスパゲティが乱暴に飛び出てきた。

食器だながテーブルに倒れ込み、太郎はすごいショックを感じた。思わず目をつぶり身を硬くする……。

気がつくとも揺れは収まっている。カメのようにテーブルの下から顔を出してみた。部屋の中は風のあとのようなだった。

お母さんの後ろでは、赤い炎が

チラチラとしている。流しの上にかけてあつたふきんがガスレンジの上に落ちて燃え移ったのだ。

お父さんと太郎は、うずくまっているお母さんにかげようとした。すると、お父さんが「痛っ」と短く叫んで足元を見た。ガラスのかげらを踏みつけてしまったようだ。だけど、そんなことにかま

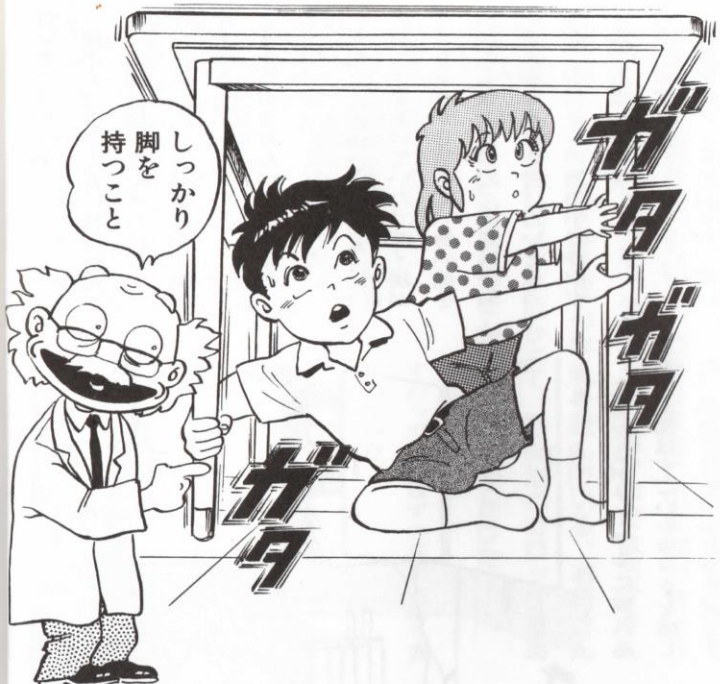
つていられない。二人はお母さんを抱き起こした。腕はヤケドで赤くなり、足の甲はまっ青にはれ上がっていた。

「だ・い・じょうぶ、よ」
小さいけれどしっかりした声を耳にして、太郎はほっと胸をなでおろした。



こうすれば安全

身の安全を確保して 揺れが収まったら 火の始末



しっかり
脚を
持つこと

何としてもテーブルの下へ

いざ地震というとき、キッチン
は凶器の山だということが、わか
つていただけたらう。棚という
棚から、電子レンジにお皿、スプ
ーンまでがおそいかかってくる。
そして、食器だなや冷蔵庫が体の
上におおいかぶさってくる。まず、
これらの凶器から身を守ることが
第一だ。

それには、何としてもテーブル
の下にもぐり込むこと。もぐり込
んだら、テーブルからはみ出さな
いように、テーブルの脚をしま
りつかむ。テーブルはちよつとや
そつとの衝撃では壊れない、頼も
しい盾になって体を守ってくれる。
テーブルまでたどりつけなかつ
たら、ソファやローチェストの
へりに身を寄せるのもいい。とに
かく、倒れてくるものや落ちてく

るもの、飛んでくるものをさえぎ
つてくれるもののかげに身を寄
せ、手で頭をおおい、体を丸くし
てうすくまる。

使用中のガスレンジからは 一歩でも遠ざかる

揚げ物をしていたり、お湯を沸
かしているガスレンジのそばにい
た場合は、とにかくその場を離れ
ること。地震が発生した時に一番
怖いのは、煮えたぎった油やお湯
を浴びて、ヤケドを負うことだ。
よく「グラツ」ときたら火の始末」
というが、あれはウソ。「グラツ」
が収まったら火の始末」が正しい。
それは、たとえ軽い揺れの場合で
も同じ。鍋が不安定でひっくりか
える可能性がないとも限らないの
だ。あわててガスレンジに近づか
ないようにしたい。また、都市ガ
スやプロパンガスの場合、震度5

を感じると自動的にガスの供給
がストップするようになっている。

足元には十分気をつける

地震が収まったら、そこでガス
レンジまわりをチェック。このと
き何かが燃えていたとしても、た
いた火ではないはずだ。はきも
のをはいた足で踏めば簡単に消火
できる。ただし、くれぐれも落ち
着いて行動すること。あわてては
たいたりすると、火の子を舞い散

らしたりして、いたずらに火勢を
大きくしてしまうこともあるから
だ。火を消したら、ガスの元栓を
しっかり閉じる。(消火の基本は
30ページを見てほしい)
最後に注意をもうひとつ。ガラ
ス製品の多いキッチンの床は、お
皿やコップの破片が一面に散らば
っていて、たいへん危険だ。不用
意に歩くと、思わぬケガをしてし
まう。足元には十分気をつけてほ
しい。



足元には
よく
注意



ポイント

- テーブルにもぐって脚を
しっかりとにぎる。
- レンジの鍋やかんは
要注意。
- 揺れが止んでから火の始
末。
- 食器の破片に気をつけ
る。

震度5でガスは止まる

都市ガスは工場で作られ、地下のパイ
プを通して家まで届く。その途中には、
いくつもの弁がついていて、いざ地震と
いうときは、ガスの供給をストップでき
ようになっている。

代表的なのは「マイコンメーター」と呼
ばれる揺れを感知する装置が付いたガス
メーターで、震度5以上の揺れを感じる
と、自動的に家の手前でガスを止めるよ
うになっている。日本全体で99%の家庭
にこのマイコンメーターが取り付けられ
ている。残りの家庭も数年のうちにこの
タイプのメーターに付け替えられる予定
だ。

また、工場から家庭までの間でパイ
プが割れたり、はずれたりして、ガス漏れが
発生する場合もある。そんなときは、地
域ごとに付いている大きな弁が閉じ、ガ
スを止めるようになっている。

プロパンガスも、全国の99%の家庭に
マイコンメーターが付けられている。万
が一、マイコンメーターが付けられてい
なくても、ガスが異常に流れ出ると、警
報器がなりガスの供給が止まるように
なっている。

だが、どんな機械でも、絶対だいじょ
うぶということはない。揺れが止んだら
自分の手で必ず元栓を締めること。

身の安全を確保して、

振れが治まったら

火の始末

ガスは震度 5 相当以上で自動で止まる

震度 6 強の地震発生

リビング・トイレ・風呂で被災

頑丈な家具の近くに逃げる

床には窓ガラスやグラスの

かけらが飛び散っている



頑丈な家具のそばに身を寄せる トイレ・お風呂では動かない

頑丈な家具のかけへ

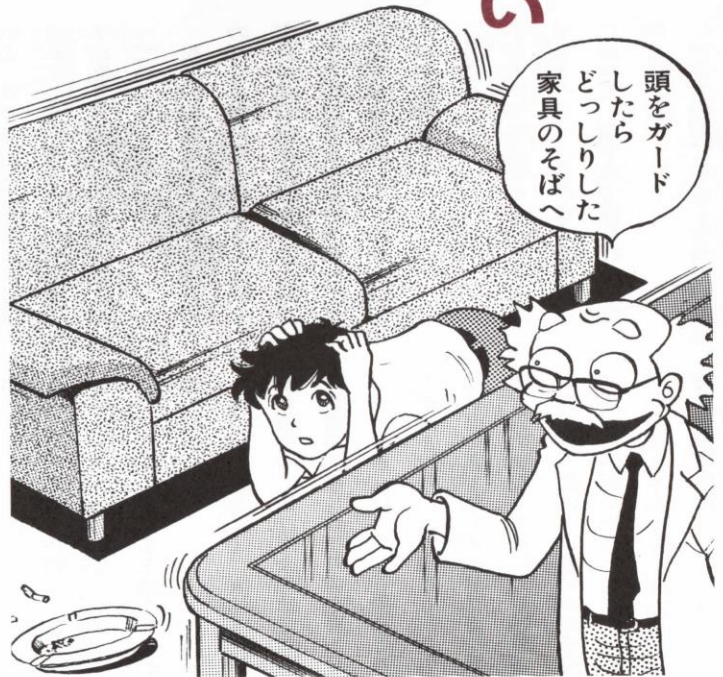
リビングもキッチンと同じく、地震となれば非常に危険な場所になる。額や時計が壁から落ちてくるのももちろんのこと、阪神淡路大震災の報告には「テレビが宙を飛んだ」「ピアノが床を滑っておそいかかってきた」など、我々の想像を超えたものが少なくなかった。普段はどっしりとリビングに取まっている家具、電化製品も、強烈な揺れにはどういった動きをするかまったく予測できない。

まず、テーブルやこたつなどの家具の下にもぐり込み、身の安全

をはかるのが第一だ。もし、もぐり込める場所がなかったら、頭を手で守り、ソファなど背が低く、しっかりとした家具のかけに身を寄せること。たとえ頭上をさえぎることができなくても、直接ものが当たる確率は低くなり、ショックもやわらげてくれる。

一方、トイレやお風呂にいますきに地震が発生したら、あわてて外に飛び出さないで、その場に留まり、姿勢を低くしてじっとしていること。

トイレやお風呂は頭上に落ちてくるものが少ないうえ、狭い空間を柱で囲んでいるから天井がしつ



かりしていて、比較的安全な場所といえるのだ。

ただし、家のゆがみでドアが開かなくなることもあるので、できれば入り口を開けたい。

電化製品はすべて出火の原因となる可能性がある

揺れが収まったら、出火はないか部屋をよく見回すこと。使用中だったストーブやアイロンなどが

転倒していないかのチェックも忘れず。揺れのショックで電化製品のコードが引きちぎられて火花

が上がリ、カーテンなどに燃え移っている可能性もある。

だれかがお風呂を使用していた

場合は、湯を沸かす部分をチェックし、種火を切る。

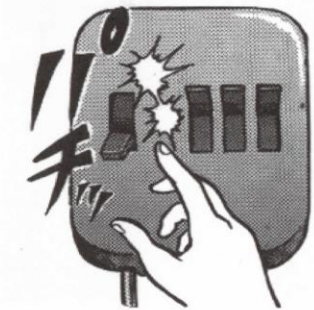
阪神淡路大震災の火災では、出火原因として電気が関係しているものが実に多かった。これは、地震発生直後からの停電で、スイッ

チを切らずに放置された暖房器具

チを切らずに放置された暖房器具などが、再び電気が通った際に加熱して引火したものが、引きちぎられたコードに通電した際、ショートして火花をあげて引火した結果の出火であった。

停電した場合、一見、電化製品は安全に見えるが、再度通電した場合になが起るかわかったものではない。ひとまずブレーカーを落とし、電気をシャットアウトして様子を見ること。

ただし、通電しているときは、まずガスが漏れていないか確認す



ポイント

- テーブルの下や、背が低い家具のかけへ身を寄せ
- トイレ、お風呂では出入口を確保してその場を動かない。
- 揺れが収まったら火を確認し、停電でもブレーカーを落とす。

壁が傾き、お風呂のまわりは
水浸し

風呂場やトイレは頑丈なので
慌てて逃げない

就寝中

シミュレーション

AM 0時00分

ベッドがすべり出し 本だなやタンスが ひっくりかえる



真夜中、すでに家族はみんな床についており、太郎もすっかり夢の中だ。太郎の部屋は一見きれいにかたづいていけるけれど、本だなには大好きなマンガがスラツとならび、押し入れにはオモチャがギューギューづめになっている。楽しそうな寝顔を浮かべる太郎。きつ

「いい夢を見ていたに違いないのだったが…」

太郎は、飛行機に乗っている夢

を見ていた。窓の外の景色のすばらしさと思わず立ち上がろうとした。すると突然、飛行機は乱気流に飲み込まれたのか、上下に大きく揺れた。乗客は不安そうな声を上げ、あちこちでコップやかばんが床に落ちた。

ガガッ！

と聞きた。

「あれ？ なんだ？」

おでこに何かが当たったのを感じて、太郎は目が覚めた。ズウーんとぶいたみがある。机の上にあったはずの鉛筆けずりが飛んできたのだ。

怖い夢から覚めたというのに、まるで飛行機が落ちていくような勢いで、部屋は不気味にきしんで

いた。机や本だから、本やプラモデルや筆箱が、ガチャンッ、ドサドサッと次々に床に落ちる音が聞こえた。太郎は、ようやく自分の部屋が揺れていることに気がついた。

ズズズッ、ズズズッ

太郎のベッドがなにかの力で引きずられたかのように、揺れながら動いている。

「うわわっ、うわわわっ」

太郎は思わず大声を上げた。

「どうしよう！ 地震だ！ 何も見えない！」

太郎は、フトンを頭の上まで引っぱりあげた。

太郎の上にも音もなく降ってくる。太郎は、さらに身を縮めて耳をふさぎ歯をくいしばり目をじつ

ドタッ、ドタッ、ドタッ！

ベッドで寝ている太郎の足先の方で、だれかが足を踏み鳴らしているような音がする。それは人の足音ではなかった。マンガや百科事典がしまった本だながおどっていたのだ。そしてベッドに倒れてきた。

バッターン！ バラバラバラッ

本だなが太郎の体にのしかかる。

「ウッ！」

足をはさまれて、太郎の口から

うめき声もれた。飛び散った本が枕元まで飛んでくる。

ドドドンッと戸をたたく音がする。どうやら押し入れらしい。

ドドダンッ、ドダダンッ

ガダダダンッ！

激しく揺れながら、その音は次第に大きくなった。太郎はフトンの中で身を丸めてガタガタとふる

と聞きた。

いつのまにか、揺れは収まっていた。でも太郎の体のふるえはとまらない。

「だいじょうぶか！」

懐中電灯を手にしたお父さんが来てくれた。

その声を聞いて、太郎はフトンをはねのけた。

「お父さんっ！」

懐中電灯に照らし出された部屋はひどい様子だった。ベッドは部屋のまん中まで動いていて、本や服が足の踏み場もないほど散らばっている。壁には何本もヒビが入っていた。

太郎は足をひきずりながら、ひっくりかえったタンスを乗り越えて、お父さんにかげよった。お父さんは太郎の手をとって、ろうかまで出ると、すぐに隣の花子の部屋へ向かった。

ベッドがすべり出し、

本だなやタンスがひっくり返る

床には飛び散ったガラスなどがある！

スリッパをはく習慣をつける



防災頭巾がわりに フトンで体を保護 移動はカメのように

フトンにもぐって 落下物から身を守る

阪神淡路大震災が起こったのは、日の出前。多くの人が、まだ床についている時間であった。人々は文字通り強烈な揺れにたたき起こされた格好となった。不気味な音がびびきわたり、真っ暗闇の中、本はもちろん、押し入れの中のものまで次から次へと降ってくる。立ち上がることもできず、家具という家具が倒れてきて、生きた心地もなかったという。そんな状況のなかで身を守るために、フトンを頭からすっぽり

かぶることだ。そうすれば、フトンが防災頭巾がわりになって、落下物の衝撃を吸収してくれる。

その際に注意をひとつ。フトンの中では体を横向き、またはうつぶせにして、小さく縮めること。仰向けに寝ている上に重いものが落ちてくると、フトンで顔をふさがれて、息ができなくなってしまうが、体を横か下に向けていれば、フトンと顔の間に空間ができるので、顔がふさがれずにすむ。

しかも、ある程度自由に体が動かせるので、ものが倒れ込んできたとしても、比較的楽に脱出することができる。



ふとんは
大きな
防災頭巾
じゃ

とくにうつぶせになって体を小さく縮めていれば、その分、落下物に当たりにくいし、腕や足はさまれる危険性も少なくなる。も

「カメ歩行」で安全に移動

そして、もし、余裕があれば、机やベッドなど、頑丈なものの下へ身を隠す。そのためにもベッドや机は簡単なことでは動き出さないよう、しっかりと固定しておきたい(家具の固定は79ページ以降を参照)。移動するときは、決して立ち上がりとはしないこと。こは両手両足をついて、カメのようにつくくり進もう。

あわてて立ち上がろうとすれ

きみの部屋の安全地帯は?

阪神淡路大震災では、就寝中だったこともあって、多くの人が天井や家具の下敷きになって死亡した。こうした死死者は死者全体の9割を超える。にもかかわらず、瓦礫の下からたいたいたケガもなく救出された人も大勢いた。その多くは、トイレ、押し入れ、机、テーブルといった安全地帯に逃げ込んで、災いを免れたのだ。さらに、家具の配置かげんで寝ていた場所がたまたまにしろ、シェルター化した例も数多く報告されている。

ある人は、寝床に倒れてきた衣装ダンスの扉が開き、その中にスッポリ入ってしまったおかげで、ほとんど無傷で救出された。またある人はベッドからふり落とされたが、落ちた場所がベッドと机のすき間だったために、梁につぶされずにすんだという。ある病院では、5階がすっかりつぶれてしまったが、ベッドの頭にあるパイプの柵がつかえ棒になって、無事だった患者さんもいる。

もちろん、それらのほとんどが偶然ではあるが、いざというときを想定して、部屋をもう一度見直し、模様替えを検討してみてもはどうかろう。



ポイント

- 揺れを感じたら、すっぽりフトンをかぶる。
- フトンの中では、体を横向き、またはうつぶせに。
- 移動するときはゆっくり確実にカメ歩行で。

そして、たどりついたら、首や手足をしっかりと縮めて、揺れが収まるまで、なにかあってもそこを離れないこと。

ば、揺れに足をすくわれて転んでしまう。しかも、あたりは真っ暗で、どこになが落ちていいるかわからない。カメが甲らを背負って歩くように、フトンをかぶったままで動くことができれば、それが一番安全だ。



あわてて
立たない
こと

あわてて

震度 6 強の地震発生

外出先で被災

ブロック塀や石垣から離れる

自動販売機は倒れる

ビルからは窓ガラスが降る

せまい路地の両側から
ブロック塀やかわらが
おそつてくる

れた電線がビュンビュンとうなっている。路地の入り口にある2階建ての木造の家から、バラバラとかわらが落ちてくる。

ミツミツ、ドスーン

地びきとともに、もくもくとほこりが立ち、2人の顔はまっ白になった。

その家を見ると、1階部分はあとかたもなく消えていた。何本かの電線が引きちぎられ、火花を散らし、2人の頭上をうなりをあげてかすめていった。家のそばに立

うになった。

右手のブロック塀を見上げる

と、前後に小さく揺れていた。

太郎は花子の肩を抱え、とっさに

身を引いた。次の瞬間足元スレス

レにブロック塀がごう音を立てて

倒れてきた。太郎は唇がブルブル

ふるえ、声も出なかった。

電柱がぐんぐんに動き、引っぱら



「花子、忘れ物だぞ」

太郎は大声を上げながら花子を

追ってきた。振り向いた花子は、

今来た道を少し引き返した。

「おにいちゃん、ありがとう」

太郎が体育用シューズを渡そう

としたその時だった。

ドーン、ダダダダ

足元からの突き上げるようなシ

っっていた電柱が押し倒されて、横倒しになっている。

ふと気づくと、揺れは収まっていた。太郎と花子は、ひざをついたままほこりだらけの顔を見合わせ、互いの無事を確認した。

太郎は立ち上がり、あたりを見

回した。一言もことが出ない。

さつきまで朝日に輝いていた街角は、映画で見た戦場のように姿を変え、あたり一面にほこりが舞っている。

「おにいちゃん……」

花子が泣きじゃくりながら、太郎のシャツのすそを引っぱった。

ゴーツ

ヒビの走った地面から、低く太

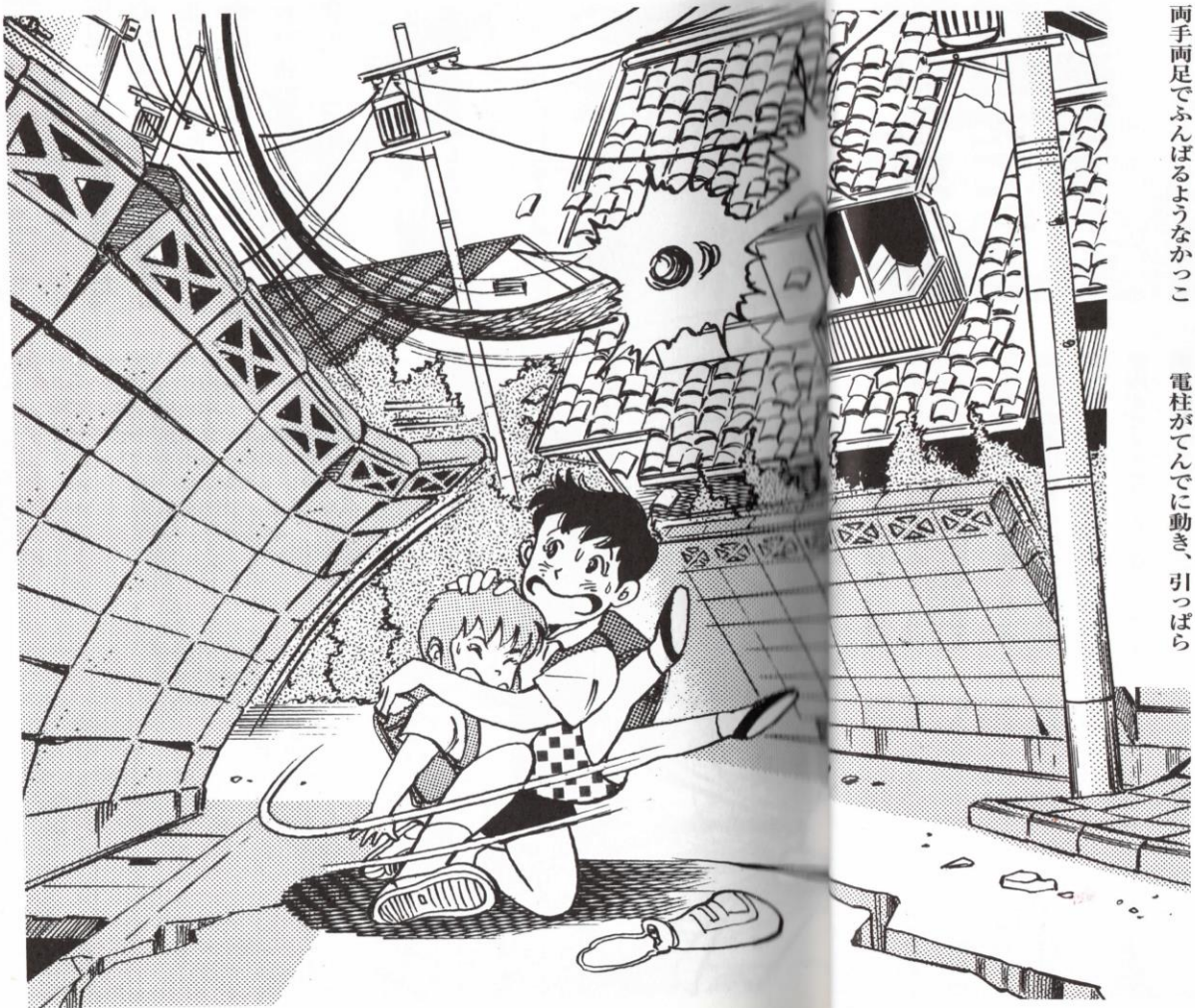
い音が聞こえてくる。

(ん？ ガスのにおいだ)

「花子、だいじょうぶか？ ここ

にいちやあぶない、逃げるぞ」

2人は家と学校のちょうどまん



中にいた。(どっちだ？ やっば

り学校かな、でもお母さんはい

じょうぶかな……)

太郎は、普段、お母さんが「い

はずだ。行くぞ、花子」

太郎は、花子の手を引き、倒れ

た家や電柱を避けながら、慎重に

歩きはじめた。

看板が落ち、

自動販売機は倒れ、

空からガラス片が降ってくる！

ランドセルやカバンで頭を守る

震度 6 強の地震発生

スーパーで被災

陳列棚から商品が落ちてくる！

買い物かごがヘルメットになる

一時的な停電が不安をあおり人々が出口に殺到する

お母さんと花子は近所のスーパーに買い物に来ている。

そこは地下1階から3階までのフロアがあり、食料品から衣類、電化製品までさまざまな品物を売っている。2人の目的地は地下の食料品売り場。夕飯前とあって、売り場はかなり込みあっている。地下へ降りると、目の前はお菓子売り場。花子は目を輝かせている。



「ひとつだけよ」

お母さんがそう言うと、花子はキャンディーの袋に手を伸ばした。そのときだった。

カタカタガターン

腰がくだけるような衝撃を受



抱きしめた。

不意に明かりがつき、どよめきが起こった。幸い、花子にケガはなかったようだ。お母さんは踏まれた足が痛くて起き上がれな

る。

「花子おー!」

お母さんは必死になって花子の上におおいかぶさった。お菓子が滝のように、お母さんの背中めがけて落ちてくる。

ガサガサ、バサバサ

ガラガラガラン

ドスンッ

キヤーン

これまで聞いたこともないようないろんな音が入り混じり、それ聞いた花子はすぐみあがってし

まった。棚のむこうではワゴンの上に山積みになっていた特売の缶ジュースが、崩れている。

大きな陳列だが、横方向にユツユツと揺れている。今にも2人の上に倒れてきそうだ。

ブツン

電気が消え、まっ暗になる。そこからじゅうから悲鳴が聞こえてきたが花子は声が出なかった。

地震は収まったようだが、あたりはまだまっ暗だ。泣き声や悲鳴は止むことはなく、むしろどんどん大きくなっていくようだった。遠くで「非常口」の看板がぼんやり光っていた。人影が暗闇の中を動いているのがわかる。

「痛い!」

だれかがお母さんの足を踏んづけて通り過ぎていった。お母さんは痛む足を押さえながら、手さぐりでお菓子の袋をどけて、花子を抱きしめた。お母さん、花子は、その勢いのすごさにあっけにとられ、その場を動けない。わきをかけぬけていく人をよけるのがせいっぱいだった。

1階へと上がる2つの階段にはあっという間に人だかりができた。我を忘れて先を争う人たちが押しあいへしあいになり、どなり声があちこちから上がる。まさにパニック状態だ。

「押さないでください! 火事なんかに起きてません。落ち着いてください!」

店員が必死で声を上げるが、その声はむなしく無視された。とうとう押し倒された人が出たと思ったら、そこから次々と将棋倒しになっていった。

お母さんと花子は体を寄せ、ぼう然とこの騒動を震えながら眺めていた。

い。棚やワゴンに並べてあった商品はまるでお店ごとひっくり返したかのようにきれいさっぱり床に落ち、せまい通路には足の踏み場

もないほどに商品が散乱している

た。

「火事だあ!」

男の人の叫び声が聞こえると、みな一様に血相を変え出口を目指した。中には、床の商品に足をと

店員の指示を待ち、

冷静に非難をする

火事だ！

といったデマに惑わされない

車を運転中に地震発生！

安全を確認し、車を左に寄せて停車。車を離れるときはキーを車内に置いて安全な場所に避難。

(緊急車両などの通行の妨げになったり、近隣で火災が発生した際に第三者が車を移動できるようにするため)

防災レイアウト

冷蔵庫・家具・タンス・本棚

は壁に固定する

キッチン

食器だな

- ①重いものは下にしまう。②敷き板をかませる。③溜め金具を付ける(開け閉めに不便があるが、強くて太い輪ゴムでも OK)。揺れた拍子にはずれてしまうことがないように、ロックするものもある。④固定具で天井に固定。⑤二段重ねの場合は、つなぎ目を粘着シートや金具で固定する。⑥飛散防止フィルムを張る。⑦上にはものを置かない。

冷蔵庫

- ①キャスター付きの場合ははずす。②固定金具で天井や壁に固定。

電子レンジ

- ① なるべく低い所へ置く
- ② ラバーシートをはさむ
- ③ 台も固定する

吊り戸だな

- ① 重いものは入れない。
- ② 留め金具を付ける。
- ③ ロック式のストッパーに付け替える。

ガスレンジ

- ① 周りに燃えやすいものは置かない。
- ② 消火器はガスレンジの近くに固定する。
- ③ 防火シートを張る。
- ④ ホースのジョイントはしっかり閉める。

出入口

出入口付近に家具は置かない。

テーブル

すぐ逃げ込めるように、テーブルの下にはものを置かない。

照明

- ①吊り下げ式のもの、とくにシャンデリアタイプは天井の梁、棧などにしっかり固定。
- ②できるだけ軽いものが望ましい。

窓

- ①ブラインドやカーテンで・飛散がかなり防げる。②飛散防止フィルムを張る。

額・時計

- ①浮き上がってもはずれないようにする。

テレビ

- ①なるべく低い場所に瞳き・台にガムテープで固定。テレビが飛び出してきたような場所には大型のクッションを置いておくのも一案。②ラバーシートをはさむ。③台に棧をつけて飛び出し防止。④台は壁に固定。

ソファ

- ①家具が転倒してこない場所に

本だな

- ③百科事典のように重い本は下段に収納する。②本が飛び出すのを防ぐバンド。③敷板をかませる。④天井をしっかりと固定する。⑥2段のものはテープや金具でつなぎの部分と同定する。

タンス

重いものは下段に収納する。中身がおどらないようにきっちり詰める。天板をしっかりと固定する。

ベッド

- ① 本だなやタンスが倒れてきたり、照明が落ちてこない位置に置く。②ベッド下が空いている場合は逃げ込めるよう、ものは置かない。③脚の裏に滑り止めのゴムを張る。④足もとにスリッパを置く。

机

- ⑩すぐ逃げ込めるよう、イスを引いておくくせをつける。

富士山噴火

中規模想定火口は、天母山北側噴火で
火砕流が富士宮市羽衣区に到達するの
は3日後と予測されている！

慌てずに避難！ どこに？

避難先は清水、静岡方面

絶対に車で避難しない！

車で避難しても大渋滞に巻き込まれ、第2、第3
被害に遭う恐れあり。必要最低限の荷物を持って
徒歩で避難する。

デマに惑わされない！

ライン、インスタなど SNS では、
デマが飛ぶ。

動物園からライオンが逃げた！

早く銀行に行かないとお金が無くなる！

誰かが、井戸に毒を流し込んだ！

貴船小学校までの避難マップ を家族で作る

家族で貴船小学校まで避難ルートを歩いてみよう

自宅から学校までの危険個所をチェック

壊れそうな家や建物

ブロック塀

カワラや家の窓からガラスが落ちてくる箇所

火事起きそうな箇所

電線がたれてきそうな箇所